

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101901
法人名	有限会社 ムツミサプライ
事業所名	グループホームたらみ
所在地	長崎県諫早市多良見町化屋1235
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 1 日
評価結果市町村受理日	平成 28 年 4 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosvoCd=4271101901-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念に基づき、入居者様とご家族様が、この施設で良かったと思っただけのように心がけている。その為に入居者様との信頼関係を構築した上で、入居者様一人ひとりの日常生活を細かい場面まで観察し、残存機能を生かした介護支援をユニットごとに職員が話し合い、チームケアができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、立地環境と利便性が良く、入居者の要望に応じた買い物支援や通院への支援を仕組みやすい住宅地域である。平成27年5月に同敷地内に小規模多機能事業所を開設して、厨房の設備を整えグループホームの入居者及び職員の食事一括して調理している。代表取締役社長は、職員の意見を受け入れて車いす対応の福祉車両やユニット別の外出ができるワゴン車を導入し、また、各トイレにウォシュレットを取り付けて職員の業務の効率化を取組んでいる。職員は、内外の研修に参加して、支援の資質向上に向けて研鑽し、入居者の大切な日々の生活を自分らしく過ごして頂けるような支援に努めている。毎朝定時に入居者一人ひとりがマイクを通じて「皆さんおはようございます。健康の為、元気にラジオ体操を始めましょう」と元気に話をされている。職員は、親睦を深めて相互のチームワークによって、家庭的な雰囲気配慮した支援を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆様、ご家族が利用して「良かった」と喜ばれる事を理念に入居者様の援助に取り組んでいる。	職員は、入居者一人ひとりの立場を考慮して、入居者が求めている支援を理解しながら、笑顔で楽しく過ごして頂けるような支援に努めている。家族にも喜んで頂けるような支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散髪や買い物、病院受診等で地元の方(知り合い)の方たちと会話を楽しまれている。	地域の方の集まりや御宮祭りに参加したり、夏は蛍の乱舞の鑑賞に夜の散策に出向いている。オカリナの演奏やわらびの会の演奏と合唱などのボランティアを多く受け入れ、3ヶ月に1回一緒に楽しく過ごされている。また、専門学校の実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々やご家族へは認知症の人の支援の方法や理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や評価をもとにサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、市職員・自治会長・家族の参加により、年6回実施している。昨年は小規模多機能事業所の開設に伴い開催できない折もあったが、今年度は2か月に1回を目途に開催を予定している。会議は、入居状況や事故報告の事例を報告して、地域のボランティアの紹介を依頼している。	小規模事業所とグループホームの合同会議の話し合いの場を有効活用して頂けるよう、家族の参加者や地域の協力者、または地域消防団員など地域力を吸い上げられるような会議への参加者をつのり、透明性に関する取組を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の運営に関する相談やケアの向上や、市町村からの情報などを密に取り協力関係を築いている。	管理者はGH連絡協議会の役員を担い、また運営推進会議などを通じて、市職員との連携も考慮して、入居者の生活保護の手続きの為に出向いている。平成27年立ち上げの小規模事業所も兼務の為、質疑があれば問い合わせを考慮している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしてはいけないという事を理解している。玄関の施錠に関してはご家族様からの理解を得て施錠を行っているが、入居者様の状態に応じて解放を行っている。	職員は入居者の意識を大切に、ゆっくりと判断して頂き、意向を確認してから支援に繋がっている。入居者の安全確保と外部施設の事例を検討し、家族の理解の下で玄関の施錠に繋がっている。入居者の要望に沿って、職員が買い物への外出に同行している。	日中、入居者の安全確保や危険防止を理由に施錠を常態化することなく、開放時間を記録して職員の見守りの強化にて自由な暮らしの支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会や研修と日頃のカンファレンスにて情報交換を行い、適切なケアができるように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ市や包括センターに相談したり、学ぶ機会を設けるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様やご本人様の意見や希望等を聞き、ケアへの考えや取り組みを説明し医療の連携体制をを十分に理解して頂き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とご家族様との面会時に状況を報告し、又、電話での対応にて意見や要望を聞く様に努めている。	職員は、家族の訪問時「意見・要望はないでしょうか？」と伺う機会を設け、預り金の報告や家族の満足と信頼関係の構築に繋がるように努めている。行事や外出時の入居者のスナップ写真を掲示したホームだよりを不定期に家族へ発送して報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスを設け、意見交換出来る時間を作っている。	職員相互の関係性は、親睦会の機会も増えた事により良好になっている。また、チームワークを心掛けた職員のケアへの指摘事項は主任に報告し、職員会議で議題にあげて改善に繋げている。代表取締役社長は、職員の要望を受け入れ、福祉車両の導入や各トイレにウォシュレットを取り付けた事で職員の業務の改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修以外にも個人的に研修に参加している職員の状況を把握して職員個々の評価に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修や外部の研修へ出来るだけ参加していただき、知識やスキルアップの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会など同じ職種の方々が集まる研修への参加する機会を設け他の施設の情報を取り入れ、質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様やご家族様との事前面談を行い、生活状況、身体的状態を把握することに努め、情報提供を依頼してご本人を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が今まで困窮されてきた状況や状態を聞き、必要に応じて他機関への情報を提供したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族様の状況を踏まえた上で臨機応変に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や行動を共にすることによって職員と入居者様との関係を暮らしを共にする者という関係に近づけていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを聞き、寄り添い、日頃の気付きや出来事を共有してご本人を支えていくことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用したり買い物へ行ったり、友人や知人との交流を持ちやすい環境づくりに努め、個々の生活スタイルを尊重している。	入居者は、近所の方との出会いを楽しみにしており、地域の祭りへの参加や病院受診での出会いを職員に楽しんで話されている。また、近所の方や親戚そして孫の訪問を楽しみにしている。ペットの犬を連れての訪問を受け入れたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流関係が上手くいくように手助けを行い、日常の変化や情報を把握して注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方でもその後の経過を見守っている。ご家族様からの相談があった場合でも都度対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より情報を収集し、ご本人の思いを表情や言動より汲み取り、寄り添う介護ができるように心がけている。	職員は、入居者に1日1回必ず言葉かけをするように心掛けている。施設長・管理者も入居者に関わり、思いを傾聴し、買い物支援やドライブでの気分転換を図れるような支援に取り組んでいる。業務優先でなく、入居者の話を聞く機会を考慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメント表の活用、ご家族様からの情報提供により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、バイタル測定・レクリエーションへの参加を促し残存機能の低下防止に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や状態の観察を日誌に記入し、課題となるものが発生すれば話し合いを行い介護計画を作成している。	職員は、介護計画の具体的な援助内容に沿って支援に取り組み、入居者の1日の状態や反応、また夜勤時の状況を解り易く1枚の文書として記載方法を考慮している。短期目標を評価して職員の意見を聞き取り、支援内容に変更や追記内容があれば反映して、次の計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記入し一日の出来事やどのように過ごされたかを記載し全職員が連携した実践が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態を見て、外出や医療機関への受診等を行い、家族の意向に合わせて外出や外泊に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の通い慣れた商店等を利用したりすることによって暮らしを楽しんでいただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じて、施設の協力医療機関に限定することなく今までのかかりつけ医院等とも情報の共有に努め適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からの入居者一人ひとりのかかりつけ医を継続的に通院支援をしている。入居者の病状の変化の際は、看護師と医師の連携の下、協力医への入院処置をして頂けることで家族の安心に繋がっている。職員は、薬の服用についてもかかりつけ医の指示を仰ぐこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や身体観察を行い、状態の変化に応じ看護師へ報告を行い必要に応じて医療機関等とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院は主治医と話し合いを行い、状態に応じて早期に退院できるように医療機関と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化された場合は状態に応じてご家族様や主治医、職員と話し合いを行い要望に沿えるように努めている。	看取りの経緯はなく、入居時、家族との話し合いで医療行為はできない旨を説明している。看護師・医師と連携し、入居者の病状の変化に応じてその都度、家族の意向を確認して対応している。退院後、職員の対処方法の努力もあり、補助具を使用して自力で立位歩行ができるようになった事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習には職員全員が交代で受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署や近隣住民の方々にも協力を得て避難訓練を行い、定期的に消火器の点検も行っている。	避難訓練は、消防署立ち合いの下、夜間想定の実施している。また、自主訓練を今年度3月10日に実施済みで、今後も3か月に1回の実施を予定している。食料の備蓄は、隣接の事業所の食品庫に備え、その他の紙おむつ類をホーム倉庫に保管してある。近隣住民との協力関係の構築に努めており、民生委員や自治会長の方に参加を要請して、参加頂いた経緯もある。	防災計画書及び入居者一人ひとりの顔写真(等身大)連絡先・病歴・服薬状況など記載の緊急持ち出しファイルの作成と、自主訓練の実施状況の記録文書の作成と、今後も近隣住民や地域消防団との協力関係の構築に考慮して、入居者の見守りの協力を繋がるような関係性を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等は一人一人の誇りやプライバシーを尊重し対応には注意をして行っている。	職員は、排泄支援の折にトイレカーテンを閉めたり、その場を離れたりして入居者に配慮した支援を心掛けている。居室への入室は必ずノック、言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの希望があった場合には出来るだけ対応を行うように努め、意思表示が困難な方に対しては表情や反応を日頃から観察してご本人の意思をくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活スタイルに合わせてゆっくりと安心して生活できるような環境を維持できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みのものを身につけて頂く様に支援を行っている。ご本人の希望に応じて交換、更衣の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理のいきとどいた献立を厨房で作って提供し、気の合った方々が同じテーブルで楽しく食べていただけるように支援している。	母体医院の管理栄養士の献立に基づいて、隣接する小規模多機能事業所の厨房で調理し、配膳している。職員は、調理担当職員に味付けと煮え具合の他に、入居者の好みや咀嚼状況などを報告し、美味しい食事の提供に取組んでいる。刻みやミキサー食が必要な場合は、入居者の意志を確認し職員が対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事や水分の摂取量の確認を行い、一人一人の状態に応じた量や提供形態の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りの下口腔ケアを行い、介助が必要な方には職員が付き添って介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録してトイレ案内を行ったり、入居者様の動きをよく観察し排泄のタイミングを見極め、その都度案内を行っている。	夜勤帯は、入居者の状況に応じてポータブルトイレを設けたり、パットの交換支援や2時間置きの声かけ以外にも見守り支援に努め、転倒予防にも留意している。職員は気づきノートや申し送りノートを確認し、共有を図るように努めている。日中は、入居者に言葉かけをして排泄の自立支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや水分補給、適度な運動を行い便秘解消に努めている。必要時応じて医師にも相談を行い下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や要望に応じて入浴を行っている。入浴を好まれない方は時間をかけて声掛けを行い入浴していただけるように支援している。	職員は、入居者のお湯の温度の好みに配慮し、週3回を目途に午前中に入浴支援をしている。皮膚の乾燥予防の薬を塗ったり、尿路感染予防の為に毎朝清拭支援にも取り組んでいる。入浴拒否があれば翌日の入浴支援を考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて休息したり、出来るだけ日中は身体を動かしていただけるような支援を行い夜間の安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が把握できるように入居者様のカルテに個別に保管し、目的や副作用を把握できるようにしている。服薬の際は誤薬の無いように確認作業を何重にも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で入居者様一人一人に出来る作業をお願いして生活にめりはりが出来るように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物やドライブなどの外出を行っている。ご本人の希望の行き先によってはご家族様へ連絡を取り了解を得て外出を行っている。	職員は、入居者の「買い物に行きたい」との要望に答え、家族へ預り金について報告し、同意を得て買い物支援を行なっている。また、花の開花時期に合わせた外出をユニット毎に支援し、入居者に季節の変化を感じ楽しんで貰える様に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿って少額の金銭を所持していただき、買い物の際には支払いもしていただいている。基本的にはお小遣いは事務所にて管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて施設の電話を使っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけを入居者様と一緒にを行い、リビングには温湿度計を設置して居心地に良い環境づくりに努めている。	戸外の景観が見える共用空間は、手作りの日めくりカレンダーや季節の飾りつけで彩られている。また、入居者の和みの場となり、職員の言葉かけによる入居者の笑顔を見ることができた。中庭を囲んだ回廊づくりの廊下では、歩行補助具や押し車を使用する事で入居者の筋力低下の予防に繋がり、中庭の野菜の生育や小鳥の飛来の鑑賞など季節の移り変わりも楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関などにソファを置いて一人でも複数人でも思い思いに過ごせる環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までご自宅などで使われてきた物を持ち込んでいただき入居者様が居心地よく過ごしていただけるような環境づくりに努めている。	居室には収納筆筒と2人かけのソファ、リクライニングベッドが備え付けてある。家族の配慮でテレビや置時計を持ち込み、寝具は備え付けだが毛布を持参される方もいる。職員は、居室の清掃や室温の他に昼間にポータブルを置かないなどの配慮を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の表示は入居者様にわかりやすいように目印をつけるなど工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆様、ご家族が利用して「良かった」と喜ばれる事を理念に入居者様の援助に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散髪や買い物、病院受診等で地元の方(知り合い)の方たちと会話を楽しまれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々やご家族へは認知症の人の支援の方法や理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や評価をもとにサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の運営に関する相談やケアの向上や、市町村からの情報などを密に取り協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないことを理解している。玄関の施錠に関してはご家族様からの理解を得て施錠を行っているが、入居者様の状態に応じて解放を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会や研修と日頃のカンファレンスにて情報交換を行い、適切なケアができるように心がけている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ市や包括センターに相談したり、学ぶ機会を設けるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様やご本人様の意見や希望等を聞き、ケアへの考えや取り組みを説明し医療の連携体制を十分に理解して頂き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とご家族様との面会時に状況を報告し、又、電話での対応にて意見や要望を聞く様に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスを設け、意見交換出来る時間を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修以外にも個人的に研修に参加している職員の状況を把握して職員個々の評価に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修や外部の研修へ出来るだけ参加していただき、知識やスキルアップの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会など同じ職種の方々が集まる研修への参加する機会を設け他の施設の情報を取り入れ、質の向上に活かしている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様やご家族様との事前面談を行い、生活状況、身体的状態を把握することに努め、情報提供を依頼してご本人を理解するように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が今まで困窮されてきた状況や状態を聞き、必要に応じて他機関への情報を提供したりしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族様の状況を踏まえた上で臨機応変に対応できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や行動を共にすることによって職員と入居者様との関係を暮らしを共にする者という関係に近づけていけるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを聞き、寄り添い、日頃の気付きや出来事を共有してご本人を支えていくことに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用したり買い物へ行ったり、友人や知人との交流を持ちやすい環境づくりに努め、個々の生活スタイルを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流関係が上手くいくように手助けを行い、日常の変化や情報を把握して注意深く見守るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方でもその後の経過を見守っている。ご家族様からの相談があった場合でも都度対応を行っている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より情報を収集し、ご本人の思いを表情や言動より汲み取り、寄り添う介護ができるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメント表の活用、ご家族様からの情報提供により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、バイタル測定・レクリエーションへの参加を促し残存機能の低下防止に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や状態の観察を日誌に記入し、課題となるものが発生すれば話し合いを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記入し一日の出来事やどのように過ごされたかを記載し全職員が連携した実践が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態を見て、外出や医療機関への受診等を行い、家族の意向に合わせて外出や外泊に対応している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の通い慣れた商店等を利用したりすることによって暮らしを楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じて、施設の協力医療機関に限定することなく今までのかかりつけ医院等とも情報の共有に努め適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や身体観察を行い、状態の変化に応じ看護師へ報告を行い必要に応じて医療機関等とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院は主治医と話し合いを行い、状態に応じて早期に退院できるように医療機関と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化された場合は状態に応じてご家族様や主治医、職員と話し合いを行い要望に沿えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習には職員全員が交代で受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署や近隣住民の方々にも協力を得て避難訓練を行い、定期的に消火器の点検も行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等は一人一人の誇りやプライバシーを尊重し対応には注意をして行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの希望があった場合には出来るだけ対応を行うように努め、意思表示が困難な方に対しては表情や反応を日頃から観察してご本人の意思をくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活スタイルに合わせてゆっくりと安心して生活できるような環境を維持できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みのものを身につけて頂く様に支援を行っている。ご本人の希望に応じて交換、更衣の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理のいきとどいた献立を厨房で作って提供し、気の合った方々が同じテーブルで楽しく食べていただけるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事や水分の摂取量の確認を行い、一人一人の状態に応じた量や提供形態の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りの下口腔ケアを行い、介助が必要な方には職員が付き添って介助を行っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録してトイレ案内を行ったり、入居者様の動きをよく観察し排泄のタイミングを見極め、その都度案内を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージや水分補給、適度な運動を行い便秘解消に努めている。必要時応じて医師にも相談を行い下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や要望に応じて入浴を行っている。入浴を好まれない方は時間をかけて声掛けを行い入浴していただけるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて休息したり、出来るだけ日中は身体を動かしていただけるような支援を行い夜間の安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が把握できるように入居者様のカルテに個別に保管し、目的や副作用を把握できるようにしている。服薬の際は誤薬の無いように確認作業を何重にも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で入居者様一人一人に出来る作業をお願いして生活にメリハリが出来るように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物やドライブなどの外出を行っている。ご本人の希望の行き先によってはご家族様へ連絡を取り了解を得て外出を行っている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿って少額の金銭を所持していただき、買い物際には支払いもしていただいている。基本的にはお小遣いは事務所にて管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて施設の電話を使っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけを入居者様と一緒に、リビングには温湿度計を設置して居心地に良い環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関などにソファを置いて一人でも複数人でも思い思いに過ごせる環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には今までご自宅などで使われてきた物を持ち込んでいただき入居者様が居心地よく過ごしていただけるような環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の表示は入居者様にわかりやすいように目印をつけるなど工夫を行っている。		